連載 熱海市立図書館100年のあゆみ

第1回 熱海町立図書館の開設

問い合わせ：熱海市立図書館 ☎0557(86)6591

熱海市立図書館は今年の11月10日で創立100周年を迎え、県内の図書館で最も古い歴史を誇ります。

今月号から12回にわたり「熱海市立図書館100年のあゆみ」を紹介します。市民の皆さんに私たちの街の図書館の歴史や文化を理解していただくとともに、熱海を愛し、熱海市民の一人であることに誇りを持っていただく機会になれば幸いです。

熱海市立（町立）図書館の誕生は、熱海とともに生きた坪内逍遙を中心とした有志の寄贈図書からはじまりました。

現在の岐阜県美濃加茂市に生まれた逍遙は、東京開成学校（後の東京大学）に在学中の明治12（1879）年、病弱の長兄の湯治に付き添って初めて熱海を訪れました。熱海の温泉や歓楽の中でも純朴味の漂う雰囲気が気に入った逍遙は、明治19（1886）年、妻センとの新婚旅行に熱海を訪れ、荒宿（現在の銀座町）の露木旅館に宿泊しました。

▲逍遙と妻（セン）

このころから冬の休暇となると露木旅館を常宿として熱海に滞在するようになり、とうとう大正元（1912）年には、露木旅館の主人の紹介で荒宿の糸川左岸にあった漁師の家二軒を購入して別荘とし、熱海の町の人たちとの交流も広まりはじめました。

▲常宿だった露木旅館

逍遙は、理論家であると同時に実践家の人であるといわれています。文学、演劇舞踊、美術、児童劇、ページェント、さらに教育、倫理の多方面にわたって先駆的な業績を残した逍遙は、生涯にわたって愛すと同時に、苦言を呈してきた熱海に対して多くのものを残しています。

大正3（1914）年には、大正天皇の御大典に向け、熱海町でも記念の事業が立案されました。

その一つが「図書館の設立」でした。立案者の一人の斉藤要八（『熱海錦嚢（きんのう）』、『熱海町誌』、『熱海と五十名家』の編者）が逍遙を訪ねてその趣旨を語り、協力を要請すると、逍遙は快く引き受け、自らの所蔵する良書約3600冊と図書館用の大火鉢をあわせて寄贈したのです。それが引き金となり、石渡要吾、野田郊策、小松政一ほかの有志より寄贈された図書に町の購入図書を加えて5657冊が揃い、大正4（1915）年11月10日に、大正天皇御大典の記念事業として「熱海町立図書館」が開設されました。

図書の寄贈だけではなく、逍遙は歓楽地化してゆく熱海の文化を憂い、熱海の再生への提言も発表しています。『熱海是非』では、熱海への注文の一つとして次の言葉が示されています。

> 来遊者のために、又土地の男女のために、簡易なる併しながら相應に藏書の豊富なる圖書館を設けざるべからず
>
> （熱海と五十名家より）

この言葉は、図書館の必要性を示しているとともに、熱海へ訪れる来遊者、熱海市民を思う逍遙の温かな心が伝わってきます。

市長メッセージ88

春の記録

熱海市長 齊藤 栄

この春は天候にも恵まれ、多くの来遊客に熱海を訪れていただいた結果、二つの記録を達成しました。

一つ目は、梅まつり期間中の入園者数が20万人を突破したことです。5年前（平成23年）に梅園の有料化を始めてから最高の数字となりました。今年は花付きもさらに良くなって、お客様の満足度も高かったのではないかと感じます。梅まつり期間中、大変寒い中ご協力いただいたスタッフ、そしてボランティアの皆さんに心から感謝を申し上げます。一方で梅園周辺のひどい交通渋滞や入園に時間がかかるなどの問題も生じました。これは多くのお客様が訪れたことによるうれしい悲鳴ではありますが、来年に向けてしっかりと対策を立ててまいります。

二つ目は、起雲閣の年間有料入館者数が10万人を超えたことです。14年前（平成12年）の開館以来、10万人を超えたのは初めてのことです。特筆すべきは、単に入館者数だけでなく、来館者の満足度も非常に高いという点です。起雲閣は開館当初から市が直営で運営してきましたが、平成24年度から3年間は地元の女性NPOが運営してきました。私はこのような実績が「市民参画」によって成し遂げられている点に大きな意味があると考えています。

梅園、起雲閣におけるこれらの成果は、行政と観光業界そして市民の協働によるものです。今後、この協働をさらに前に進めていきます。

連載 熱海市立図書館100年のあゆみ

第2回「逍遙先生記念町立熱海図書館」の開館

問い合わせ：熱海市立図書館 ☎0557(86)6591

大正4（1915）年11月10日、大正天皇御大典記念事業として、坪内逍遙ほか有志の寄贈図書によって開設された「熱海町立図書館」は、田原町（現在の春日町）にあった熱海尋常高等小学校の正面玄関二階の貴賓室に設けられました。

▲熱海尋常高等小学校

逍遙は所蔵図書寄贈後も、新刊図書などの寄贈を続けるとともに、図書館の運営に関しての助言を続け、「図書目録の作成」や「寄贈者名の捺印」、「閲覧・貸出規則」、「番号・分類・蔵書印による管理」などの必要性を指導しており、現在における図書館運営の礎となっています。

やがて、大正9（1920）年には小学校から喩滝館（きゅうきかん）に移されました。熱海市史によりますと、「本図書館は田方郡熱海町喩滝館内に附設す」と書かれ、図書館長は町長が務めるとされています。

▲逍遙直筆の覚書

熱海の歴史を代表する大湯間歇泉の傍らにあり、町営のレクリエーション・センターともなっていた喩滝館に図書館を構えたことは、いかにも大正の熱海にふさわしいものであったとも述べられています。

すでに館外貸出の制度もあり、貸出期間は10日間、貸出冊数は洋装書一冊、和装書二冊以下で、町民甲種（15歳以上）は貳円、乙種（15歳以下）は壱円に区別された保証金制度がとられていたとされています。

昭和9（1935）年、喩滝館が火災のために焼失した後、図書館は町役場楼上に移転しましたが、設備などが公共図書館として不備であるとし、昭和10年7月から昭和11年2月末まで休館し、この間に旧御用邸（現在の熱海市役所用地）一階を改造し、同年3月「逍遙先生記念町立熱海図書館」として開館しました。

そして、昭和10年5月1日付けで「図書臺帳（だいちょう）一号」が作成されています。登録されている冊数は266冊、その内寄贈者に逍遙の名が記されている図書は約1200冊、またセン夫人の名前で明治・大正の教科書、シェイクスピア全集など、多数の図書が寄贈されています。

熱海町では、逍遙夫妻への感謝の気持ちを後世にも伝えるため、「逍遙先生記念町立熱海図書館」のスタンプを作り蔵書に捺印しています。

▲蔵書のスタンプ

また逍遙先生の寄贈図書にはもう一つ「寄贈文学博士坪内逍遙先生」のスタンプを見ることもできます。

市制が施行された昭和12年4月には「逍遙先生記念市立熱海図書館」と改正されましたが、同年日中戦争が勃発し、人手不足のため図書館は休館となり、改めて開館したのは昭和19年のことでした。

市長メッセージ 89

県立熱海高校

熱海市長　齊藤　栄

熱海市内には唯一の高校「県立熱海高校」があります。「ビジネス」や「福祉」といった特色ある教育プログラムがあるだけでなく、ヨット部、陸上部、報道部などの部活動の活躍は全国レベルです。しかし、近年志願者が減少しており、市としても本格的に熱海高校の魅力向上に力を入れています。

その一つは高校の通学路となる「さくらの名所散策路」の整備です。昨年から工事を再開し、平成28年度中の完成を目指しています。この通学路は「絶景」という言葉がぴったりの遊歩道です。長浜海岸を眼下に望み、地元の観光振興、防災にも寄与することが期待されます。

もう一つは静岡県、熱海市、産業界、地域の関係者からなる懇話会の設置です。「県立高校だから県の問題」ではありません。「熱海高校をより良くするには」を目標に関係者が皆で議論し、できることから実践しています。全国でも珍しい取り組みです。例えばこの3月に、熱海商工会議所が熱海高校の2年生を対象にした地元企業見学会を初めて開催しました。熱海高校に行けば、地元の企業に必ず就職できるというようになれば若年層の人口流出に歯止めがかけられます。

新年度から法律が変わって、市長がより深く教育に関われるようになり、「福祉」や「産業」分野と「教育」との連携が可能となります。教育委員会と市長部局がしっかりと連携して、教育の課題に取り組んでまいります。

齊藤市長　本音トーク　毎月最終水曜日午後2時～3時、FM熱海湯河原(79.6MHz)で放送中！（再放送は翌日木曜日午後8時～9時）

連載

熱海市立図書館 100年のあゆみ

第3回 双柿舎からの寄贈資料①

問い合わせ：熱海市立図書館
☎0557(86)6591

熱海町立図書館に尽力した坪内逍遥は、別荘「双柿舎」を建立し、研究の傍ら熱海に関する歴史資料や地図などの収集に力を注ぎました。

逍遥は昭和10年に逝去し、逍遥亡き後も双柿舎で資料の保管と整理に努めたセン夫人も昭和24年に逝去しました。その後、双柿舎は早稲田大学に寄贈されましたが、逍遥の遺品を整理していた同大学から「双柿舎」の名前で図書館に図書と歴史資料の寄贈がありました。

「図書台帳第三号」に記載されている248点に上る資料は、熱海の歴史を学ぶうえで貴重な品々であり、熱海に関する研究に大変役立っています。その中から、今回は、絵画と和綴の資料を紹介します。

・『名勝八景　熱海夕照』

二代目歌川豊國著

熱海を描いた浮世絵版画は、ポーランド美術館所蔵の安藤広重の「豆州熱海湯治場之圖」と、この豊國の浮世絵が有名で、江戸期の熱海の様子を紹介する代表的な作品です。下町の家並（現在の銀座通り）を中心に熱海湾を一望にまとめた絵で、初島や大島、真鶴岬を構図に入れています。江戸や大阪に向かう千石船や地元の回船も描かれており、浜では漁師の地引網も描写されています。

▲名勝八景　熱海夕照

・『熱海名主代々手控抜書』

江戸時代から熱海で名主を務めていた今井家（今井半太夫）が、熱海に関する主要な出来事を抜き書きしたもので、幕府から熱海御殿の鍵を預かったことや、御汲み湯御用を勤めたこと、熱海の漁業権争いや韮山代官所への訴訟など、さまざまな事柄が書き記されていて、熱海研究に必読の資料です。

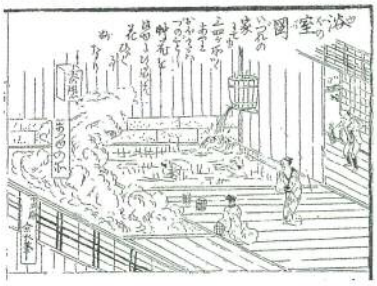
・『熱海日録』（明和4年）人見黍著

熱海の湯治20日間で99回入湯し、持病の「血疾」を完治させたという事例を紹介するなど、明和期の熱海の様子や入湯法を伝えています。

・『熱海温泉圖彙』（天保3年）

山東庵京山著

熱海温泉の由来や、温泉効能、浴方、産物などが紹介されている書物で、万巻上人の図や熱海七湯の絵を見るのも楽しいです。『湯あみの仕方』として、「七日間を一回りとし、初めはあまり熱きに入るべからず。入らんとする時、まず顔を注ぎ体を湿し……」と、1日目から7日目までの温泉の利用の方法を細かく示したり、「湯は玲滝（透き通っている）たる事、水晶の如し。大便通ぜざる人、一碗を喫すれば、快く通ずといふ」などと、温泉を飲むことで便通が良くなることも紹介されています。熱海温泉研究に最も利用されている書物です。



▲熱海温泉圖彙　浴室図

図書館では、これまでにこのコーナーに掲載された各種資料を展示しています。ぜひご来館ください。

市長メッセージ 90

投票率

熱海市長　齊藤　栄

熱海市ではこの4月に統一地方選挙として、県議会議員、市議会議員の選挙が行われました。気になるのは、それぞれの投票率が49・26％、56・06％と大変低かったことです。これは熱海市に限らず全国的な傾向のようですが、私は選挙というのは市民の意思を政治に反映させる大切なプロセスだと考えているので、政治に対する意識が低くなっているのではないかと、とても危惧しています。

投票率を上げるためには、地方議会に関心を持ってもらうことが大切です。以前、熱海市でも「子ども議会」が行われましたが、市民にとって市議会とは何をするところなのかを知る良い機会であり、参加した小・中学生はその体験を一生覚えていることでしょう。

また、行政としてもできることを考えなければなりません。例えば投票しやすい環境を整えることです。熱海市では高齢化が進んでいるため、投票所までの距離や階段の有無などが投票率に影響すると推察されます。また、期日前投票を充実させることも投票率アップにつながると考えられます。各地区にあるそれぞれの投票所について、今回の選挙結果を詳しく分析し対応策を考えたいと思います。

私は地方自治の基本は「自分たちのまちは自分たちがつくる」ことだと考えていますが、自分たちの代表を決めるのが選挙です。行政も努力を行うとともに、市民の皆さんにも政治に関心を持ってもらいたいと思います。

齊藤市長　本音トーク　毎月最終水曜日午後2時～3時、FM熱海湯河原(79.6MHz)で放送中！（再放送は翌日木曜日午後8時～9時）

連載 熱海市立図書館 100年のあゆみ

第4回 双柿舎からの寄贈資料②

問い合わせ：熱海市立図書館
☎0557(86)6591

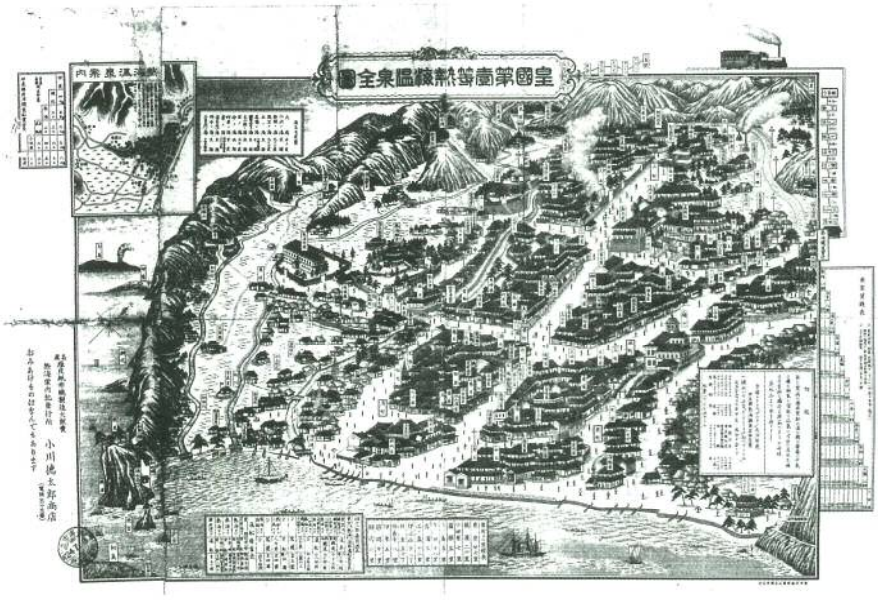
坪内逍遙の別荘であった双柿舎から熱海市立図書館に寄贈された郷土資料の中には、熱海の歴史に関わる書籍のほか、熱海を中心とした古地図や観光資料が多数含まれています。

特に、明治～昭和期に人気のあった「鳥瞰図」は、熱海や伊豆などを紹介した地図が多数あり熱海の町の変遷を学ぶ貴重資料となっています。

・皇國第壹等熱海温泉全圖

明治13年から41年までの熱海の町を細かく表現した多くの地図から、大湯の湯煙りを中心に発展していく町の様子がよくわかります。

例えば、明治13年版で「熱海学校」だった土地が、15年版では「三菱所有地」となり、18年版では「宮内省所有地」に、24年版では「熱海離宮（御用邸）」になるなど、4枚の地図を見るだけでも明治期の町の変化が分かります。また、明治41年版では、水道が引かれ、電線が張り巡らされ、軽便鉄道が運行するなど、今から107年前の熱海の近代化の様子がうかがえます。



皇國第壹等熱海温泉全圖　明治41年版

逍遙からは熱海のほかに歴史のある「箱根」や「鎌倉」の資料も寄贈されています。今回は「箱根遊覧路線圖」をご紹介します。

・箱根遊覧路線圖

発行年は不明ですが、まだ東海道線が御殿場経由の時代、箱根を中心に観光バスの営業をしていた富士屋自動車が作製した3枚組のドライブマップです。

「昔は馬で登り、駕籠で越した箱根八里の嶮道も、今は文明の利器に惠まれて、あらゆる交通機関が備はり、居ながらにして探勝十二湯巡りが出来るようになりました」と、箱根遊覧を案内。また、「富士屋自動車は、沼津から絶景十國峠を越えて、一路熱海温泉に向ふ乗合を運轉しています。賃金僅かに一圓八十錢で列車の二等の二圓五十八錢に比する時は、いづれが便利であるか、敢説くまでもない事です」と、バス利用の良さを伝えています。

図書館では今回、明治期の熱海の変化と発展の様子を、市民の皆さんにご覧いただけるよう『皇國第壹等熱海温泉全圖展』を開催します。

鳥瞰図で見る、明治期の町並みに当時の生活を感じます。ぜひ、お楽しみください。

市長メッセージ 91

台湾でのトップセールス

熱海市長　齊藤　栄

5月下旬に台湾で行われた台北国際観光博覧会で、伊豆半島の魅力をプロモーションし、伊豆半島への誘客を図ることを目的に「美しい伊豆創造センター」加盟市町12人の首長（市長および町長）でトップセールスに行ってきました。

台北国際観光博覧会の会場は、ラッシュアワーを思わせる混雑ぶりで、国際観光への意識の高さを感じました。特に20代の若者が多く来場していたように見受けられ、台湾の国際観光に対するエネルギーを感じました。

台湾は今、経済成長が目覚ましく、人口約2300万人の半分が海外旅行をしています。世界ジオパークを目指す伊豆半島にとっても巨大なマーケットとなる可能性を持っていますので、今回のトップセールスの役割は重要です。

また、博覧会2日目には、各市町が3分間のプレゼンテーションを行いました。熱海市は、花火大会・芸妓の舞・梅園・街の全景を映像を使って紹介してきました。特に花火大会を観光の目玉に紹介したのは熱海だけでしたので、台湾の人たちに和食（海の幸）と並んで興味を持っていただきました。

「伊豆はひとつ」を具体的に進めていくための「美しい伊豆創造センター」は、この4月に設立された組織です。2020年の東京五輪を目標に、伊豆の首長たちと、伊豆全体を盛り上げていきます。

齊藤市長　本音トーク　毎月最終水曜日午後2時～3時、FM熱海湯河原(79.6MHz)で放送中！
（再放送は翌日木曜日午後8時～9時）

連載 熱海市立図書館 100年のあゆみ

第5回 図書館　波乱の再スタート

問い合わせ：熱海市立図書館
☎0557(86)6591

戦争のため昭和13年から一時閉館していた旧御用邸1階の図書館は、昭和19年8月に開館しました。しかし、収蔵していた図書を戦禍から守るため、伊豆山神社をはじめ熱海高等女学校や市内のお寺に図書を分散して疎開させました。そして、昭和21年に分散していた図書を集め、改めて図書を整理し再び開館しましたが、館外貸し出しは行いませんでした。

当時の一日平均閲覧者は男性29人、女性6人程度と記録されています。昭和22年、簡易裁判所が旧御用邸1階を使用したため、図書館は2階に移転しました。当時の蔵書数は8821冊、記録によりますと「図書閲覧の傾向では百科事典の利用が群を抜いて多いが、小・中学生にはやや難しく、最近玉川出版部で発行中の『学習大辞典』を非常に喜んで見て居る」と記されています。

昭和25年の熱海大火後、図書館は青年会館に移転、そして、昭和28年、新熱海市役所落成に伴い、図書館は6階に移転、狭いながらも「市立熱海図書館」として再スタートしたのです。蔵書数は1万3951冊、一日利用者数は平均178人と大幅に増加しました。

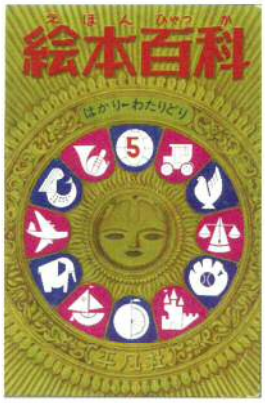
混雑した市庁舎での図書館

この年から家庭で気軽に図書を手にし、家族の心の交流と生活の充実、子どもの情操教育の向上を目的として「お茶の間図書館活動」が開始されました。グループ単位の貸し出しを行っていたので、毎月一回、グループの代表者宅や図書館で図書の交換が行われ、市内の読書人口の広がりへと進みました。

昭和38年の「図書館だより」に、「私の読んだ一冊」として25冊の本が紹介されています。その内の2冊を紹介します。

・絵本百科第五巻（平凡社）
さまざまな事柄を写真を使わずに絵だけで描写しています。

・五番町夕霧楼（水上勉著）
遊女の生涯を描いた名作です。



（昭和38年初版）

市民の皆さんも、以前に読んだ本として懐かしく感じられるのではないでしょうか。

家庭の中に徐々に浸透してきた読書への関心ですが、もう少し深く図書に親しんでもらおうと、昭和39年に「文学観賞講座」を開講しました。最初の講座は、現代詩集を研究していた静岡大学教授であった江頭彦造氏による、「平安女流日記文学」についてでした。

この講座は、後に「文学講座」と名を変え、石川啄木を研究した岩城之徳氏、斎藤茂吉研究の権威である藤岡武雄氏など多くの有名な講師を招き、図書館の名物企画となりました。毎回多くの市民が参加し、文学の魅力を学びました。

蔵書数も3万1598冊となった市庁舎6階の図書館。利用者の増加や各種企画の開催にともない、市庁舎の一室での図書館運営は困難を来すようになり、市民の間からも、学びの場である専用の図書館の建設を望む声が高まってきたのです。

市長メッセージ 92

田邉前副市長の帰任

熱海市長　齊藤　栄

6月30日、田邉国治前副市長が4年の任期を終え、出向元の経済産業省へ帰任しました。当日は、多くの市職員、市議会議員、市民の皆さんに市役所の玄関で見送られ、抱えきれないほどの花束を抱えた彼の姿に私も感動しました。

副市長は市職員を束ねる事務方のトップであり、市長の片腕となる重要な役職です。

田邉さんは副市長としては33歳という全国最年少級の若さで、しかも熱海という新たな土地での就任。苦労が多かったと思いますが、多くの実績をあげてくれました。

年間100件を超えるロケ誘致を成功させている「ADさんいらっしゃい」や、事業者に新商品開発・販路拡大などのビジネス支援を行うA－biz（エービズ）などは彼の力がなければ実現しなかったでしょう。心から感謝しています。

そして、何より最大の功績は「挑戦する文化」を熱海市役所に持ち込んでくれたことです。これは経済産業省が持っている文化であり、行政も常に新しいことにチャレンジし、まず一歩を踏み出そう、走りながら考えようという姿勢です。職員の模範となるよう、先頭に立ってこの姿勢を貫いてくれました。

7月1日、新たな副市長として森本要さんが就任しました。再び経済産業省からの出向で、千葉市出身の36歳、市役所などの基礎自治体での勤務を希望していました。熱海市には人口減少をはじめ多くの課題があります。新副市長と二人三脚で、引き続き新たな挑戦をしてまいります。

齊藤市長　本音トーク　毎月最終水曜日午後2時～3時、FM熱海湯河原(79.6MHz)で放送中！
（再放送は翌日木曜日午後8時～9時）

連載

熱海市立図書館 100年のあゆみ

第6回 「文化会館」と「熱海市立図書館」の誕生

問い合わせ：熱海市立図書館
☎0557(86)6591

市制30周年を迎えた昭和42年4月、歴史を刻む旧御用邸の跡地に文化会館が建設されました。熱海市民の文化の殿堂となるこの会館は、地下1階地上3階の建物で、1階には会議室や結婚式場、2階には講演会や展示会が開催できるホールなどが設けられました。この文化会館の3階と中3階に待望の図書館が誕生したのです。

蔵書数4万5981冊となった図書館は、「熱海市立図書館」と改称され、閲覧室や児童室、資料室、書庫や事務室が完備されました。

新しい図書館では、吹き抜けの広い閲覧室でゆったりと新聞や雑誌を読む市民や、歴史資料を探す利用者の姿が見受けられました。

児童室には市内の小学生が描いた絵を織り込んで制作された臙脂（えんじ）色のカーペットが敷かれ、好みの絵本を手に取る子どもや親子連れの姿もありました。

資料室が設けられたことにより、熱海の歴史を学ぼうとする市民も増え、新しい図書館では市民と資料を結ぶレファレンス業務も積極的に行われるようになりました。

初めて完備された吹き抜けの閲覧室で楽しむ様子

市の中心部にある図書館。児童室はできたけれど、南北に市域の広い熱海では子どもが図書館に来るのは大変です。そこで考えられたのが「出前図書館」の発想です。昭和46年から始まった「こども一日図書館」は、伊豆山仲道公会堂（第1日曜日）と網代公民館（第2日曜日）を会場にして開館され、絵本やおとぎ話などを借りる子どもたちで貸出係は大忙し、登録した子が100人にもなったといいます。

この頃には、「目の不自由な人たちにも読書を」と、点字図書を18冊揃え、利用を呼び掛けました。さらに、昭和50年代に入ると、小説や落語が吹き込まれた「テープ読書」の設置や大活字本の導入も進み、視覚障がい者の皆さんへの対応も大きく広がりました。

また、昭和50年代には、8ミリフィルムによるフィルムライブラリーも順次配備され、子どもたちは身近に映像を楽しむことができるようになりました。

宇宙戦艦ヤマト・鶴の恩返し・名犬ラッシー・ナイチンゲールなどの名作8ミリフィルムが、子ども会や保育園、各団体に貸し出され、目を輝かせて見入る子どもたちの姿がありました。

目を輝かせて楽しんだ8ミリフィルム

市長メッセージ93

戦後70年

熱海市長　齊藤　栄

今年は日本が敗戦してから、ちょうど70年目に当たります。例年以上に、先の大戦に思いをめぐらす機会があったように思います。

先日、人間魚雷「海龍（かいりゅう）」が下田港沖の海底で新たに見つかったという新聞記事を読みました。過去に熱海市網代の沖でも海龍が発見されたことがあります。太平洋戦争の末期、米艦隊が東京に来襲することを想定し、伊豆半島を前線基地化する構想があったのだそうです。終戦により、海龍は実戦に大規模には投入されませんでしたが、もし本土決戦になっていたら、この伊豆で多くの若者が特攻隊員として命を散らしていたかもしれません。

また、熱海市のある人から、子どもの頃、市内で米軍の戦闘機に追いかけられ本当に恐ろしい思いをした、操縦士の顔がはっきり見えたという話を聞いたことがあります。

私の妻の母親は二十歳の時に外地で終戦を迎えました。妻が幼少の頃から、折に触れて機銃掃射や引き揚げの話をしたそうです。妻にとって戦争の記憶は自分の母親からごく自然に受け継いだものです。一方、私の両親はもっと下の世代のため、両親の戦争体験については大変ひもじい思いをしたこと以外はあまり聞いたことがありません。このため、戦争中にどのようなことが行われていたのか、そして、なぜこの戦争が起き、なぜもっと早く終結できなかったのかについて私自身が自分の言葉で語れるように、先の大戦に対する理解を意識して深めていかねばならないと考えています。

戦争を知らない世代の皆さんにも、戦後70年の節目に「戦争の悲惨さ」「平和の尊さ」について今一度考えていただきたいものです。

齊藤市長　本音トーク　毎月最終水曜日午後2時～3時、FM熱海湯河原(79.6MHz)で放送中！
（再放送は翌日木曜日午後8時～9時）

連載

熱海市立図書館 100年のあゆみ

第7回 熱海市立図書館と読書週間

問い合わせ：熱海市立図書館
☎0557(86)6591

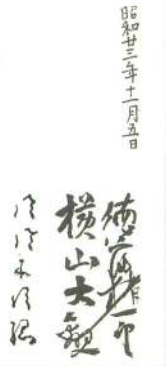
昭和42年に文化会館内に誕生した待望の「熱海市立図書館」。蔵書数も増え、市民が集う場として整備された図書館では、さまざまな催し物が行われるようになりました。

平成に入ってからは「絵本の読み聞かせの会」や、「しかけ絵本展」、「人形劇」、「製本と楽しい仲間達展」などが行われています。これらは市民の皆さんと協力して行った活動で、本を読むだけではない図書館の新たな魅力を発信するきっかけとなりました。

現在も続いている読み聞かせの会

催し物の中でも特に好評だったのが、「読書週間記念講演会」です。文化会館の完成前から読書週間に合わせて開催されてきた講演会は、文化会館にできたホールを利用してさらに規模を拡大、より多くの市民が来場するようになりました。

「読書週間」とは、毎年10月末から11月にかけて読書の楽しさや習慣づけを呼びかける全国的な行事です。大正13年に始まり、戦時中に廃止されたものの、昭和22年に改めて設けられた読書週間は、熱海市立図書館の前身である市立熱海図書館でも昭和23年から開催されました。第1回の読書週間には、熱海在住の名士による「読書懇談会」が開催され、徳富猪一郎（蘇峰）、横山大観、佐佐木信綱など、そうそうたる顔ぶれが参加しました。



読書懇談会の署名

熱海の読書週間は、その後も郷土資料の展覧会や講演会、座談会や俳句会、また、レコードコンサートなどが行われており、当時の関係者の意気込みが感じられます。

読書週間を広報するポスターも、第1回は手書きによるものでしたが、昭和23年からは印刷され図書館の資料として保存されています。

平成27年度の読書週間の標語は「いつだって　読書日和」ですが、再開された昭和22年は図書館ごとに標語を募集していました。残された記録によると、昭和31年の標語は「あかるい生活　楽しい読書」、昭和32年は「今日の読書は　あすへの希望」で、戦後の発展期にある日本の社会情勢がうかがえます。

また、昭和37年から作製が始まった「読書週間記念カレンダー」は好評で、特に図書館所蔵の古絵図を使ったカレンダーは人気でした。このカレンダーによって、熱海の歴史に関心を抱く市民も増えたといわれます。

読書週間記念カレンダー

今回、創立100周年を記念して、かつての「読書週間記念カレンダー」同様の「熱海市立図書館所蔵古絵図カレンダー」を作製する予定です。ご期待ください。

市長メッセージ 93

チーム熱海で満足度アップ！

熱海市長　齊藤　栄

今年の夏は、市内海水浴客が昨年比25％増、シルバーウィークも初島航路の乗船客数が今夏の最多記録を塗り替え、熱海駅前商店街は閉店時間を遅らせるなど大きな賑わいを見せました。

しかしながら、私には大きな不安もあります。お客様は常に熱海を厳しく値踏みしています。もし、「評判ほどでもなかった」「期待外れだった」と思われれば、また少しでも熱海で何か不愉快な思いをすれば、二度と見向きもしてくれません。熱海は今、正念場にいるのだろうと思っています。「日本でナンバーワンの温泉観光地」を目指して、熱海が一段上の観光地になるため、さらにお客様の満足度を上げていかなければなりません。

行政は道路や歩道などのインフラ整備や、熱海市全体のPR（シティプロモーション）といった、行政にしかできないことを責任を持って行います。そして市民の皆さんには、熱海にいらしたお客様の満足度を上げるためのお手伝いをぜひしてほしいのです。何も特別なことをするのではなく、ご自身の持ち場で少しご協力いただければ十分です。例えば、お客様に接する方であれば、普段のサービスに加えて、熱海のイベント情報や、熱海の住人だけが知っている絶景ポイントを教えてあげる、お客様に接する機会が無い方は、家やお店の周辺を掃除して、お客様に気持ち良く過ごしてもらうといったことなどです。

熱海の持つ素晴らしい景観、食の美味しさ、温泉文化などを、お客様に心から満喫していただけるように、そして熱海のファンになっていただけるように、市民が一丸となって、「チーム熱海」で力を合わせていきましょう。

齊藤市長　本音トーク　毎月最終水曜日午後2時～3時、FM熱海湯河原(79.6MHz)で放送中！
（再放送は翌日木曜日午後8時～9時）

連載

熱海市立図書館 100年のあゆみ

第8回 100周年を迎えた 熱海市立図書館

問い合わせ：熱海市立図書館
☎0557(86)6591

大正4年11月10日に大正天皇御大典の記念事業として創立された「熱海町立図書館」が、平成27年11月10日で100周年を迎えました。

熱海市民の文化の発信地である「熱海市立図書館」は、平成12年、懸案であった図書館の電算化システムが導入され、蔵書管理や図書の貸し出し・返却が簡単になるとともに、県立中央図書館をはじめ県内各地の図書館との連携も密になるなど、総合的なサービスが可能となりました。

そして、なじみ深かった文化会館での49年間にわたる活動を終え、熱海市役所の総合的な庁舎移転計画の中で、平成19年、熱海の海が一望できる東京電力（株）所有の建物の3階～5階を借り受け、現在の図書館に移転しました。駐車場、エレベーター、障がい者用のトイレ、冷暖房施設、学習室、会議室、和室などが完備された図書館となりました。

移転時の蔵書数は16万7055冊、図書館が創立された100年前の蔵書数5657冊と比較しても歴史の重みが感じられます。そればかりではありません。熱海市立図書館の書庫には、坪内逍遙をはじめ多くの理解ある人によって寄贈された草創期当時の図書が、現在でも大切に所管され、皆さんの貸し出しを待っているのです。これも大きな自慢です。

熱海市は温泉と観光の街です。逍遙の残した蔵書や観光資料をはじめ、これまで集められた歴史資料は熱海の大切な財産として所蔵されています。現在では熱海市立図書館のシンボルとして4階の中央部に「温泉資料コーナー」を常設し、温泉の資料を集約することにより、一人でも多くの人に温泉の魅力を知ってもらえるようにしました。

温泉資料コーナー

現在の図書館に移転し、大勢の市民の皆さんがボランティアとして参加するようになりました。

創立当時は洋装本1冊、和装本2冊以内だった貸し出しも、昭和50年代には6冊以内、現在は10冊以内となり、利用者にとっては大変便利になりました。また、図書館利用者カードの対象も、以前は小学生からでしたが、現在ではゼロ歳児からの利用が可能となりました。お母さんと子どもたちが周囲を気にしないで話をすることができる「会話ができる児童室（試行）」も始まりました。

会話ができる児童室の様子

さらに、資料検索に利用できるコンピュータの設置やAV資料の閲覧・貸し出しなど、近代的な図書館に要求される機能の充実にも努め、現在、登録者数約1万5000人、年間利用者数約3万8000人、年間貸し出し約13万冊の図書館に成長しました。

市長メッセージ 94

ソーラン節

熱海市長　齊藤　栄

長年にわたり熱海市の発展に寄与されてきた高齢者の皆さんに感謝の意を表するために「敬老大会」を開催しています。私も高齢者の皆さんと過ごす時間を楽しみにしており、余興の披露もしています。これまでジャズの演奏に合わせて「お嫁においで」を歌ったり、「上を向いて歩こう」を歌いながら保育園児と踊ったりしましたが、今年は皆さんと一緒に歌える民謡「ソーラン節」に挑戦しました。

ソーラン節はニシン漁を歌った北海道の有名な民謡ですが、民謡を歌った経験がなかった私は、牛追い会の紺野公也先生のところに数回通い特訓をしていただきました。民謡の節回しに慣れていないこともあって、三味線の伴奏に合わせて歌おうにもなかなか声が出ず、「もっとお腹に力を入れて」と指導されました。敬老大会の開催日が迫るなか、録音したテープを何度も聞き、自宅の居間やお風呂場で毎晩繰り返し練習を行いました。

当日は、妻が揃えてくれた黒紋付と袴の正装で舞台に上がりました。着物姿は一人前ですが、なにぶんにわか仕込みの歌い手なので、舞台ではとても緊張しました。一日目は歌詞が一瞬出てこないというハプニングもありましたが、二日目は紺野先生や演奏者の方々にサポートしていただき、気持ちを込めて歌うことができました。

「エン・ヤーレン、ソーラン、ソーラン」、歌い終わった後には皆さんから盛大な拍手をいただき、私も嬉しくなりました。また皆さんと会えることを楽しみにしています。

連載 熱海市立図書館 100年のあゆみ

第9回 市民に親しまれる移動図書館

問い合わせ：熱海市立図書館
☎0557(86)6591

昭和28年から、図書館に来ることができない市民を対象にした「お茶の間図書館」が始まりました。これは、5～10世帯単位でグループを作り、毎月1回、希望の本を図書館に連絡してもらい、代表者の家に図書館から本（20冊以内）をまとめて配達する仕組みでした。

この活動は、静岡県立葵文庫（現在の静岡県立中央図書館）の取り組みを参考にしたものですが、読者層の拡大や、各家庭に読書の習慣が広まったという功績はとても大きなものでした。当初は15グループで始まった「お茶の間図書館」は、市民の間にうわさが広がり、次第に貸し出し数も増え、図書館では嬉しい悲鳴が上がったそうです。

図書館に保存されている「お茶の間図書館機関紙綴」には、「図書館の方がオートバイで届けてくださるが、そのご苦労には、一同いたく感謝している」との言葉が紹介されています。大勢の市民の皆さんに感謝されたオートバイによる配達の頑張りが認められ、昭和44年には最初のブックバスが導入されると、活動の範囲も大きく広がりました。

本を詰め込んだ箱を車の中に積み、熱海の町を南北に走り回るブックバスは、すぐに市民のおなじみとなりました。特に、隔週日曜日に開催されていた伊豆山と網代での「子ども一日図書館」では、自分たちの町内にやってきたブックバスから本を借りようとする大勢の子どもたちの姿が見られました。

また、昭和47年から相の原と和田山で開催されるようになった「ひととき図書館」では、本を選ぶかたわら、気持ちの良い青空の下で、図書館職員の演ずる紙芝居に集中する市民の姿がありました。

「ひととき図書館」での紙芝居の様子

昭和50年になると、書棚を積み込んだ大型のブックバスが登場しました。子ども向けの本だけでなく、一般の書籍も満載した移動図書館がやって来ると、書棚を見ながら読みたい本を探す人の姿が急増するなど、市民の読書熱も高まりを見せました。その結果、14カ所のステーションが誕生することとなりました。

現在のブックバス「かもめ号」

昭和56年、平成4年、平成17年と買い換えられた熱海市のブックバス「かもめ号」は現在、初島を除く熱海市内の全ての小中学校を含む21カ所のステーションを巡回しています。図書の貸し出しを行うほか、予約を受け付けたり、購入の希望を聞いたり、図書の相談を受けたりと、多彩な活動が行われているかもめ号は、市民の皆さんの友だちとして親しまれています。

市長メッセージ 96

（仮称）熱海フォーラム

熱海市長　齊藤　栄

昨年4月、熱海市役所に隣接する約1000坪の土地を取得することができました。建物が密集する市街地の中心部にこれだけの広さの土地を得られたことは、千載一遇のチャンスだったと思います。私はこの土地を、世代を越えた「市民の集う場」にしたいと考え、そのための具体的な機能として2つを挙げました。

1つ目は「ホール」です。新たなホールの建設は、平成23年3月に耐震性の問題により観光会館が閉鎖されてからの課題です。私は、市民の皆さんがさまざまな活動をするにあたって使い勝手が良く、満足度の高いホールが市内に必要であると考えています。その結果として、利用頻度の高いホールとなることを望んでいます。

もう1つは「図書館」です。先月、熱海市立図書館が創立100周年を迎えました。坪内逍遙先生の図書の寄贈からスタートした歴史ある図書館です。熱海の大切な知の財産をしっかりと未来へ継承するとともに、熱海発展の歴史などを分かりやすく展示していきたいと考えます。

この2つの機能を中心とした複合施設を、仮に「熱海フォーラム」と呼び、市民ワークショップなどを開いてさまざまな観点から意見を聞いています。敷地面積や事業費などの制約がありますが、利用者の満足度を高めるため、どのようなホールや図書館を作るべきか、将来に過度な財政負担を強いないため、どのような手法で建設や運営をすべきかについて、さらに議論を深めていきます。

齊藤市長　本音トーク　毎月最終水曜日午後2時～3時、FM熱海湯河原(79.6MHz)で放送中！（再放送は翌日木曜日午後8時～9時）

連載

熱海市立図書館 100年のあゆみ

第10回 ヤングアダルトコーナーの変遷

問い合わせ：熱海市立図書館 ☎0557(86)6591

ヤングアダルトとは、「若い大人」という意味で、13歳から19歳の世代を指すアメリカで生まれた言葉です。図書館や出版業界において広く使われており、日本では2000年頃から中学生・高校生向きの図書を集めた「ヤングアダルトコーナー」を設置する図書館が増えました。

ところが、ヤングアダルトコーナーを設置したものの、コーナーに置く図書がなかなか充実しないという悩みを抱える図書館が少なくありません。大人である図書館職員が「子どもでもなく大人でもない」世代の興味に合わせた図書を選ぶのが難しいためです。

熱海市立図書館が文化会館内に開設されていた頃は、中学生・高校生向きの図書として定評のある「岩波ジュニア新書」などをまとめて置いた書棚はあったものの、図書の数が少なかったこともあり、書棚に名前はついていませんでした。平成19年、現図書館のオープンに伴い、3階閲覧室内にヤングアダルトコーナーが開設されました。ところが、コーナーが5階児童室から離れた場所にあるため分かりにくいこと、ヤングアダルト向きの図書の選書が難しいなどの理由から、コーナーが充実してきたとは言い難いものでした。そのため、コーナーの周知を図り利用を促すことが近年の課題となっていました。

そこで今年度、図書館創立100周年を記念し、ヤングアダルトコーナーリニューアル事業を行いました。今回の事業では、熱海市内の4中学校の生徒に実際に図書を選んでもらうことにしました。現役中学生の感性を生かして選んだ図書を購入し、ヤングアダルトコーナーを充実させようというものです。

ヤングアダルトコーナーの選書会

夏休みには業者からヤングアダルト向きの多くの図書が持ち込まれ、選書会が開催されました。

選書会には市内中学校担当学校司書と生徒が参加し、本を手に取って真剣に選びました。参加した中学生からは「自分たちの選んだ本があると図書館への関心が高くなる」との声がありました。

リニューアルオープン式での除幕

そして、12月19日、選書した中学生と学校司書を招き、リニューアルオープン式を開催しました。コーナーには漫画を原作にした小説など、今までの図書館にはあまりなかった本も並んでいます。

また現在、親しみやすい新しいコーナー名を中学生・高校生から募集しています。

リニューアルしたヤングアダルトコーナーが、多くの中学生・高校生に図書館へ足を運んでもらうきっかけとなることを期待しています。

メールマガジンに登録しませんか？

「熱海市メールマガジン」は、パソコンや携帯電話、スマートフォンのメールアドレスを登録していただいた皆さんに、市から各種情報をメールでお知らせします。

●広報あたみ放送内容

発行日：広報あたみ放送時
内　容：広報あたみで放送した内容

●消防・防災情報

発行日：情報入手時
内　容：気象情報、火災に関する情報など

●メルマガあたみ

発行日：第2・4金曜日
内　容：行政情報・休日当番医・イベント情報

●熱海湯めまち便り

発行日：第3金曜日
内　容：観光・イベント情報

登録はこちらから
http://www.atami.shizuoka.jp/mailmagazine/
携帯電話の人は、右のQRコードからも登録ができます。

問い合わせ 広報情報室 ☎0557(86)6070

齊藤市長　本音トーク 毎月最終水曜日午後2時～3時、FM熱海湯河原(79.6MHz)で放送中！
(再放送は翌日木曜日午後8時～9時)

連載

熱海市立図書館 100年のあゆみ

第11回 図書館を支える ボランティア活動

問い合わせ：熱海市立図書館
☎0557(86)6591

熱海市立図書館の100年の歴史は、市民の皆さんの温かな協力の継続により支えられてきました。

熱海読み聞かせの会

平成8年から同会が図書館で始めた「おはなし会」は、同年に多賀小学校での「読み聞かせ」に発展し、現在では市内各小中学校で行われています。

子どもたちに読書やおはなしの楽しさを伝えるなど、良書との出会いを願って活動する会の活動は高く評価され、平成23年度には文部科学大臣賞を受賞しました。

また、昨年「熱海読み聞かせボランティア連絡会」を立ち上げ、「図書館100周年記念クリスマス会」を開催し、たくさんの子どもたちに喜ばれました。

製本教室

製本教室の活動は、古文書の解読や、古い書物の修復作業から始まりました。平成19年からは「製本と楽しい仲間達」へと発展し、想い出の品を一冊の本にしたり、書籍の修理の仕方を学びながら、和綴じ本の綴じ紐の修復や、古地図の裏打ちなど、貴重な歴史資料の保存にも寄与する活動をしています。

また、毎年夏休みに行われる「親子手作り絵本教室」では、世界に一冊しかない自分だけの本を作る子どもたちの指導もしています。

読書感想画教室

この教室は、自分が選んだ図書の感想や印象を絵にして表す教室で、温かなご指導のもと、絵画の基礎から学ぶことができます。

朗読の会

市内の施設や図書館を会場にして朗読会が開催されています。声を出して本を読む朗読の楽しさや、読書の意義を多くの人に伝えています。

茶飲みんGUの会

同会は、毎週土日に図書館の和室を会場に、茶席を設ける活動をしています。甘いお菓子とお抹茶を楽しみにしている来館者も多いです。

あたみ図書館くらぶ

静岡県子ども読書アドバイザーを中心として、小学生を対象に、毎月テーマを決めて本を紹介するブックトークなど、本に興味を持たせながら読書の楽しさを伝えています。

親子でちょこっと英会話

子育てママを中心に活動している同教室は、昨年から始まり好評を得ています。月2回の教室では、親子の可愛らしい英語の会話が、笑顔とともに弾んでいます。

カウンターボランティア

平成19年、新しい図書館に移転した際、一番の問題は図書カウンターが3カ所に増えることによる職員の不足でした。それを解決したのが、全国でも例のない市民によるカウンターボランティアの導入です。現在、24人のボランティアが、図書の貸出・返却の業務、書架の図書整理、図書の修復作業など、図書館運営を支えています。

カウンターボランティア

このような、図書館の運営を支え、読書の楽しさを伝える活動は、現在の熱海市立図書館の大きな力となっています。

市長メッセージ 97

テレビ取材

熱海市長 齊藤 栄

東京の某テレビ局から「熱海V字復活の理由」というテーマでインタビューを受けました。熱海が今、そのように見られているのはとてもうれしいことです。市内各所で取材が行われたようですが、私はほぼ満開のあたみ桜でピンク色に染まった、糸川べりで受けました。

『ADさんいらっしゃい』を始めて4年が経ち、メディアへの露出の効果がようやく出てきたこと。しかし、梅園の大改修は9年前に、また糸川のあたみ桜の整備は7年前に始まっています。大切なことは熱海の宝を磨くこと。そのことをコツコツと行ってきたからこそのV字復活です。そのようなことを答えました。

今後真剣に取り組まなくてはならない大きな課題として、来熱客の満足度の向上があります。旅館やホテル、飲食店や土産物店、そして市民総ぐるみでお客様の満足度を上げていくことが、熱海をさらにワンランク上の観光地にするための課題です。ちょうどそのインタビューの際に、黄色いジャンパーを着た、熱海まち歩きガイドの会のメンバーの方が横を通られ、一市民として観光客に熱海を案内する活動をPRされていました。

来熱する観光客にとって、熱海は、海・山・島、温泉、梅・桜といった自然の恵みだけではなく、美味しい地の食事や、道を聞いたときの市民の感じの良い応対、きれいに掃除のされた路地など、熱海で接する全てのもので構成されています。市民一人ひとりの努力で「熱海に来てよかった」と思っていただけるよう取り組んでいきましょう。

齊藤市長 本音トーク 毎月最終水曜日午後2時～3時、FM熱海湯河原(79.6MHz)で放送中！
(再放送は翌日木曜日午後8時～9時)

連載 熱海市立図書館 100年のあゆみ

第12回（最終回） 熱海市立図書館のコンセプト

問い合わせ：熱海市立図書館
☎0557(86)6591

平成19年に図書館が現在の野中の地に移転した際、齊藤栄市長から「熱海市立図書館コンセプト」が提示されました。

その骨子こそ「歴史に学び、未来を築く、市民の図書館」です。

①「熱海の歩みを学べる図書館」

熱海市立図書館には、坪内逍遙をはじめ多くの皆さんから寄せられた貴重な歴史資料が多数所蔵されています。

図書館はこれまでも所蔵の資料を公開してきました。熱海は古い歴史をもつ街です。この街に住む人々が自分たちの街を愛し、街の成り立ちやそれを支えてきた多くの先人たちの功績に思いを寄せ、この街の歴史に興味や関心を抱けるよう、いつでも学べる図書館でありたいと思います。

②「市民が集える図書館」

図書館は、市民が気軽に来館し、文化に学び、文化を習得し、体験できる中心地でありたいと思います。

現在でも、ボランティアによって多くの講座が開催されています。小さな子どもを連れた利用者を対象に「会話が出来る児童室」が試行され、安心して本を選び、本を読み進める親子の姿も増えてきました。市民の0歳児から貸し出しカードが作成され、老若男女が利用しています。これからも気軽に来館し、利用しながら情報交換ができるような温かな交流の場でありたいと考えます。

③「市民と共に創っていく図書館」

図書館は、熱海市の多くの施設の中でも市民一人ひとりが「自分の図書館」という気持ちを持って親しみ、育てていく施設でなくてはなりません。「図書館に行けば熱海がある」と言われるような熱海市立図書館でありたいと思います。

図書館の4階の中央には「温泉資料コーナー」があり、熱海の代名詞である温泉に関する新旧の資料がいつでも手に取って読めるようになっています。この図書館はどこにでもある図書館ではなく、熱海市民の図書館である、という主張がここに込められているのです。

これまでご紹介してきたように、熱海の図書館は大正天皇御即位の記念として大正4年11月10日に開館し、名称も場所も変わってきましたが、常に多くの皆さんのご理解とご協力によって育ってきました。

現在の熱海市立図書館

坪内逍遙が熱海に「来遊者のため、又土地の男女のために、簡易なるしかしながら相応に蔵書の豊富なる図書館が必要」と考え、所蔵していた図書の寄贈を続けた温かな心は、今日まで大勢の人々に引き継がれてきました。人々の支えにより100年の歴史を重ねることができたことに感謝し、今後も「熱海市民のための図書館」として、また「熱海の歴史を後世に伝え続け、学び続けることのできる図書館」であるために、市民の皆さんのご支援を心よりお願いし、「熱海市立図書館100年のあゆみ」の連載を閉じたいと思います。

市長メッセージ 98

IPPOあじろ園オープン

熱海市長　齊藤　栄

2月22日、療育教室「IPPO（いっぽ）あじろ園」がスタートしました。療育教室とは、発達の遅れやその心配のある幼児を対象に、発達や集団性・社会性などを伸ばすための教室です。網代幼稚園内に開設し、市内では初めての療育教室になります。IPPOには「始めの一歩」「小さな一歩」の意味が込められていて、気軽に利用してもらえること、より柔軟に子どもたちをサポートできることにこだわりました。

今、発達障害や社会生活に適応できない子どもたちが増えてきていると言われています。子どもたちにとって最も大切なことは、療育教室のように専門的な指導の受けられる場所で、一日でも早く適切なサポートを受けることです。少しでも心配や不安があったら、親御さんが気軽に相談できる、同じようなお子さんを抱える親御さん同士で話ができる、そういう場に「IPPOあじろ園」がなってほしいと思っています。

市の単独経費での運用となりますが、利用者にとっての利用しやすさなどをトータルで考え、運営の柔軟性を確保するために、制約の多い、法律に基づく事業所にはあえてしませんでした。近隣ではまだ珍しい試みです。

先日、障がい福祉をテーマとした全国最大規模のフォーラムに参加し、熱海での「福祉のパイロット（先駆的な）事業」の実施を事業者などに呼びかけてきました。「住まうまち熱海づくり」に向けて、福祉の分野でも新たな挑戦をしていきます。

齊藤市長　本音トーク　毎月最終水曜日午後2時～3時、FM熱海湯河原(79.6MHz)で放送中！（再放送は翌日木曜日午後8時～9時）